

月の兎と行く

九州100温泉



ひらお  しげる
平 尾 茂

海鳥社

はじめに

温泉は、永遠に日本人の心と体の癒しの場です。

現代はストレス社会と言われています。仕事、人間関係など、現代人を取り巻くストレスはいやおうなく私たちの心や体に襲いかかり痛めつけます。温泉は疎外された私たちの心や身体を少しでも癒し、明日への活力になげてください。

温泉は実際に行って入ってみないとその良さがわかりません。ガイド本やネットの温泉情報では表面的な情報しかわからず、実際に行ってみると「なーんだ」という思いをすることが少なくありません。また、温泉巡りをしているというんな方に出会います。脳卒中で倒れた方が温泉に通うことで歩けるようになったり（佐賀）、腰痛や打ち身に特効があるというお話（福岡）など枚挙に暇がありません。

私自身もそれまで年に二、三度は風邪を引いて寝込ん

でいたのが、温泉に行き始めてからは一度も風邪を引かないようになりました。馬鹿はなんとかと言いますが、私のは温泉馬鹿です。

九州には有名な別府温泉や、最近人気のある湯布院や黒川温泉のほかにも、霧^{きり}ヶ^がの^の良^い小^さな温泉がたくさんあります。最近、湧^わ蓋^{いた}山^{さん}温泉郷や古湯・熊の川温泉郷の人気の高いのは、豊かな自然や鄙^{ひな}びた温泉の雰囲気こそが、皆が求めるほんとうの癒しだからなのかもしれません。

この本は、「月の兎」が、これまで訪ねた九州の多くの温泉の中から選んだ、温泉の魅力と感動をレポートしたものです。温泉紀行の読み物として、また温泉ファンに役立つ入湯ガイドとして気軽に楽しんでいただければ幸いです。

それでは、湯つくり楽しんでください

二〇一〇年四月二十日

月の兎 平尾 茂

■お読みいただくみなさまに

この『月の兎と行く九州100温泉』は、月の兎がこれまでに行った九州の温泉四〇〇湯以上の中から選んだ一〇〇湯です。選んだ基準は、主に二つのことです。

一、天然温泉であること。

しかしこの本で掲載した温泉の全てが源泉かけ流しの温泉というわけではありません。湯量、温度の関係で、加水加温、循環、塩素消毒していても、温泉の魅力があれば選んでいます。温泉の質はもとより大事ですが、きちんと管理されていて楽しく利用できることも重要です。

二、地元の人とのふれあい、「コミュニケーション」があること。

観光的に有名な温泉施設や名旅館・ホテルだけが魅力的な温泉ではありません。公衆浴場での地域の人たちや温泉ファンとの楽しい語らいも温泉の愉しみの一つだと思います。すてきな公共温泉の大浴場や、鄙びた雰囲気共同湯もたくさん登場します。

また、主に著者の住む北部九州から日帰りで行ける温泉・立ち寄り湯を選んでいきます。遠い人吉や鹿児島などでは

は宿泊した旅館・ホテルの温泉もあります。

本書の構成は、九州の歴史街道ごとに六つの章に分かれています。長崎街道、豊前街道、豊後街道、日田往還、人吉街道（肥薩の道）、薩摩街道の六つです。

これは、県別や流域別の温泉紹介よりも、九州の歴史街道を温泉紀行しながら訪ねるのも、より味わい深いものがあるのではないかと考えたからです。その昔、シーボルトや坂本龍馬が入ったかもしれない長崎街道の温泉や、お殿様が参勤交代の途中に楽しまれた温泉など、より一層楽しい温泉めぐりができるのではないかと思います。

原則として一つの温泉（中には二つ以上の温泉もありますが）を見開きのページで紹介しています。実際に行った（入った）温泉の入湯レポをメインに楽しんでいたかただと思います。各温泉にはイラスト、写真、温泉データ、近くの美味しいものなどの情報を付しています。また、レポートは入湯した時点のもので、最新の情報と異なる場合があります。データについてはできるだけ最新の情報を掲載したつもりですが、その後変更になっている場合もありますので、行かれる場合には確認されてからにしてください。

温泉の効能については、各温泉ごとの表示は省略しており、一般的な泉質の効能を巻末に表示していますので参考にしてください。

評価については、月の兎の個人的な項目設定、基準で評価していますのであしからず。「湯つくりほつくり度」など、まったく主観的な評価項目です。満足度についても同様です。温泉めぐりを楽しむための参考にしていただければ幸いです。

■温泉用語

足元湧出 足元からブクブクと源泉が湧き出ること。大分の川底温泉など。

泡付き 炭酸を含む湯。大分の長湯や七里田温泉下ん湯が有名。

飲泉 源泉を飲んで、その香りや味を確かめる。効能もある。

塩素 消毒するための薬剤。主に循環風呂で用いられることが多い。

かけ流し 源泉を循環させず、湯口から流しっぱなしにする。

循環 源泉を浴槽内で循環させること。

析出物 温泉に含まれる、液体中の成分が固体化したものの。

ぬる湯 ぬるくていつまでも長湯できるお湯。佐賀の古湯温泉など。

pH（ペーハー） 溶液の水素イオン濃度を表す指数。7が中性。数値が大きいほどアルカリ性で柔らかい滑らかな肌触りに（熊本の本山鹿、平山温泉など）。
モール泉 植物性腐食質などの有機物が含まれている温泉のこと。紅茶色で独特の香り（モール臭と呼ばれる）があり、肌がしっとり滑らかに（大分の耶馬溪など）。

ストレスと温泉とグルメ、そして茂^{しげ}さん 福本純雄 3
先をゆく九州の温泉 発刊によせて 村上和夫 5

はじめに 9

お読みいただくみなさまに 10

「月の兎」という奇跡 12

長崎街道の温泉

- ① 雲仙温泉小地獄温泉館……………20
- ② 雲仙温泉いわき旅館……………22
- ③ 小浜温泉おたっしやんの湯……………24
- ④ 小浜温泉旅館國崎……………26
- ⑤ 島原温泉小涌園ホテルソーダ温泉……………28
- ⑥ 世知原温泉くにみの湯山暖簾……………30
- ⑦ 嬉野温泉元湯……………32
- ⑧ 嬉野温泉大正屋四季の湯・しいばの湯……………34

- ⑨ 平谷温泉山吹の湯……………36
 - ⑩ 武雄温泉鷺の湯……………38
 - ⑪ 熊の川温泉元湯熊ノ川浴場……………40
 - ⑫ 古湯温泉鶴霊泉・夕鶴の湯……………42
 - ⑬ 古湯温泉古湯温泉センター……………44
 - ⑭ ひがしせふり温泉山茶花の湯……………46
 - ⑮ 高串温泉……………48
 - ⑯ 二日市温泉博多湯……………50
 - ⑰ 脇田温泉喜楽荘……………52
- 今なぜ、ぬる湯か 54

豊前街道の温泉

- ⑰ 宝の湯……………56
- ⑱ 三加和温泉美感遊創……………58
- ⑲ 平山温泉一木一草……………60
- ⑳ 平山温泉風月・湯の川……………62
- ㉑ 山鹿温泉桜町温泉・さくら湯……………64
- ㉒ ならのさこ温泉……………66

- ㉔ 菊鹿温泉もみじ湯……………68
 - ㉕ 栗山温泉紅さんざし……………70
 - ㉖ 植木温泉鷹の家……………72
 - ㉗ 玉名温泉つかさの湯……………74
 - ㉘ 玉名温泉竹乃香……………76
 - ㉙ 宮原温泉元湯旅館……………78
 - ㉚ 小天温泉那古井館……………80
 - ㉛ あすてらす満天の湯……………82
 - ㉜ 玄竹温泉鷹取の湯……………84
 - ㉝ 花立山温泉……………86
 - ㉞ あおき温泉……………88
 - ㉟ 大川昇開橋温泉……………90
 - ㊱ 美奈宜の杜温泉……………92
- 九州の装飾古墳と温泉 94

豊後街道の温泉

- ㊲ 別府駅前温泉散策……………96
- ㊳ 鉄輪温泉ブーラブラ……………98

- ㊳ 鉄輪温泉ひょうたん温泉……………100
 - ㊴ 鉄輪温泉共同湯めぐり……………102
 - ㊵ 鉄輪温泉神和苑・かまど地獄三丁目……………104
 - ㊶ 別府温泉保養ランド・塚原温泉火口乃泉……………106
 - ㊷ 堀田温泉・柴石温泉……………108
 - ㊸ 国東の名湯二つ……………110
 - ㊹ 湯布院温泉庄屋の館……………112
 - ㊺ 湯平温泉……………114
 - ㊻ 長湯温泉テイの湯……………116
 - ㊼ 長湯温泉ながの湯・万象の湯……………118
 - ㊽ 七里田温泉館・下ん湯……………120
 - ㊾ 赤川温泉赤川荘・産山温泉やまなみ……………122
 - ㊿ 内牧温泉町湯めぐり……………124
 - ㊱ 垂玉温泉山口旅館……………126
 - ㊲ 蘇峰温泉ゆうやけ……………128
 - ㊳ 南阿蘇の温泉……………130
- 入浴の作法 132

日田往還の温泉

●50	湧蓋山温泉郷岳の湯……………	134
●56	日平温泉さんこんかん・山川温泉ホテルの里……………	136
●57	奴留湯温泉……………	138
●58	黒川温泉旅館山河……………	140
●59	奥黒川温泉耕きちの湯……………	142
●60	川底温泉蛭川荘……………	144
●61	菅原の湯……………	146
●62	釜の口温泉……………	148
●63	湯坪温泉里やど月の家……………	150
●64	耶馬溪なかも温泉……………	152
●65	上恵良温泉……………	154
●66	下河内温泉……………	156
●67	若山温泉・折戸温泉……………	158
●68	天瀬温泉山荘天水……………	160
●69	アサダ温泉ひまわりの湯……………	162
	究極の温泉旅館の料理……………	164

人吉街道（肥薩の道）の温泉

●70	人吉温泉たから湯……………	166
●71	人吉温泉新温泉……………	168
●72	人吉温泉華まき温泉……………	170
●73	湯山温泉市房観光ホテル……………	172
●74	あさぎり紀行……………	174
●75	神の郷温泉……………	176
●76	栗野岳温泉……………	178
●77	新湯温泉新燃荘……………	180
●78	妙見温泉おりはし旅館……………	182
●79	妙見温泉石原荘……………	184
●80	湯之谷温泉湯之谷山荘……………	186
●81	霧島温泉旅行人山荘……………	188
●82	さくらさくら温泉……………	190
	川辺川源流の天然やまめを食ろう……………	192

長崎街道の温泉

長崎街道の温泉



江戸時代、長崎から佐賀を通り小倉へ通じる「長崎街道」は、当時の人、モノ、文化が流通する江戸と結ぶ大動脈でした。シーボルトや坂本龍馬、高杉晋作など幕末・明治の志士、英雄たちもこの道を歩いて旅したことでしょう。

この章で紹介する長崎街道沿いの温泉としては、海外に開かれた港町長崎の外国人の避暑地として開けた雲仙温泉、街道沿いの旅人の疲れを癒したであろう嬉野・武雄温泉、佐賀の奥座敷の古湯・熊の川温泉郷などがあります。また、玄界灘沿いの唐津、博多を巡る唐津街道沿いの温泉も紹介します。

1 雲仙温泉小地獄温泉館

硫黄臭と白濁の湯
濃い成分がギュッと凝縮したような温泉です

長崎県で温泉といえばやはり雲仙です。国立公園に指定されるまで「温泉」と書いて「うんぜん」と読んでいたそうです。温泉街からちよつと入った場所には、いい雰囲気共同浴場も点在しています。

旅館街から南に少し下ったところにある「雲仙小地獄



温泉館」の歴史は古く、幕末には吉田松陰も入ったとか。この温泉館は以前は古い共同湯だったそうですが、改築されてお洒落な建物となっています。今はすぐ近くにある国民宿舎の外湯でもあります。駐車場に着いて車のドアを開けるともう硫黄臭が漂っています。中に入ると、真っ白く濁ったお湯が湯船から溢れています。オー！



雲仙小地獄温泉館入口（上）と内湯

と感動して叫びたくなります。こんなスゴイ白濁のお湯を見たのは久住の赤川温泉以来でしょうか。

大小二つの湯船のうち、大きい方に入ります。アチッ、正直熱いです。たぶん四四、四五度くらいはありそうです。先客のおじさんが「こっちは熱かよ、あっちの（小さい）方から先に入ったらよか」と教えてくれました。すいません、といって少し場所を譲ってもらいました。なるほど、こちらは四〇度ないぐらいでゆっくりはいるには適温です。ついたての向こうには打たせ湯もあり、これも肩にあたる感じが気持ちよいです。

温泉館の中二階が休憩室になっています。温かいお茶と名物の雲仙湯せんべいをいただきます。小地獄アツアツおでん（一個百円）もありました。それにしても、雲仙温泉は濃い温泉成分がぎゅっと凝縮されたという感じの温泉ですね。雲仙にはこのほかに共同湯が二つ（新湯、湯の里）あり、ともに鄙びたい（ひな）雰囲気のお湯です。一晩たつた朝も身体から硫黄臭が抜けませんでした。

雲仙温泉共同湯めぐり



《温泉データ・評価》

- 【温泉名】 雲仙温泉雲仙小地獄温泉館
- 【住 所】 長崎県雲仙市小浜町雲仙500-1
- 【TEL】 0957-73-2351
- 【泉 質】 単純硫黄泉 41度
- 【営 業】 9:00-21:00
- 【定休日】 無休
- 【風 呂】 内湯2
- 【入浴料】 400円
- 【駐車場】 10台以上
- 【評 価】

アクセス度：4

源泉かけ流し度：5 清潔度：4

サービス・気配り度：4

風情・雰囲気度：4

肌にやさしい度：4

湯っくりホックリ度：4

見どころ食べどころ：雲仙温泉湯せんべい

【満足度】★★★★☆ (4.5)

2 雲仙温泉いわき旅館

雲仙唯一の自然湧出の温泉旅館です
長崎初の「満点温泉」、ここは通好みですね

雲仙温泉地獄の湯煙の先、温泉神社の隣に古くて小さい「雲仙いわき旅館」があります。あらかじめ電話で入浴できる時間を聞いて行きましたが、それでも「まだ九割しかたまってないので……」と断られました。せっかく来たので、「それでもいいですから」とお願いしたら



OKでした。

お風呂はもちろん今日の一番風呂です。きちんと桶やイスなどが整理された湯船というのはいつも気持ちがいいものです。四角い石の湯船も歴史を感じさせます。

石臼の形をした湯口から滔々とお湯が注がれています。乳白色の湯は硫黄臭がします。冷えた身体にジンワリとお湯がしみて少し熱く感じます。ゆっくり独り占めのお湯を堪能しました。日本温泉協会の「満点温泉」長崎県初認定だそうです。雲仙温泉では唯一の自然湧出の温泉だとか。

旅館の入り口には足湯ならぬ「指湯」があり、「日本一小さい公衆浴場です」と看板に書いてあります。もちろん内湯と同じ長崎で最高の満点温泉です。こちらは無料です（笑）。

帰りにすぐ近くの中華食堂「喜久」で遅い昼食をいた

だきました。バリバリ細麺の皿うどん（六五〇円）は麺の上のあんかけにイカ、海老など長崎らしく魚介類がたくさんはいっていましたが、出汁の生臭さがけっこう強烈でした。これって好き嫌いが分かれると思います。

お店の人にいわき旅館の湯に入ってきましたと言った



雲仙いわき旅館の玄関には立派な看板が掲げられている（上）。
日本一の温泉の湯船

《温泉データ・評価》

- 【温泉名】 雲仙いわき旅館 峰の湯
- 【住 所】 長崎県雲仙市小浜町雲仙318
- 【TEL】 0957-73-3338
- 【泉 質】 酸性含硫黄 アルミニウム 硫酸塩硫黄 泉 自然湧出
- 【営 業】 13:00-15:00ぐらい（要事前確認）
- 【定休日】 無休
- 【風 呂】 内湯 指湯
- 【入浴料】 500円（指湯は無料）
- 【駐車場】 なし
- 【評 価】
 - 施設設備度：4 アクセス度：4
 - 源泉かけ流し度：5 清潔度：4
 - サービス・気配り度：4 風情・雰囲気度：4
 - 身体の不自由な人やお年寄りにやさしい度：4
 - 肌にやさしい度：4
 - 湯づくりホックリ度：5
- 【満足度】 ★★★★★☆ (4.5)

り湯の利用は、休憩や食事とセットになっていたり、予約が必要な場合もありますので、事前の確認をおすすめします。

ら、「よう入れたね。お湯がたまっていないけん断られることが多かもね。あそこは日本一の温泉やけんね」と言っていました。

3 小浜温泉おたっしやんの湯

小浜の「脇浜温泉共同浴場」です。地元では「おたっしやんの湯」と呼ばれています。昔、おたつという人が始められ、そう呼ばれるようになったそうです。

木造の外観も内部も古いです。まるで田舎の農業倉庫です。鄙び度一二〇%の雰囲気を出しています。脱衣箱の鍵ははるか昔に壊れたまま。浴室は塗装のはげた天井から裸電球が一つぶら下がっていて、開いた窓から



地元ではおたっしやんの湯と呼ばれ
木造の建物は鄙び度一二〇%の塩湯です

は桜が見えます。のどかな普段着の温泉場の雰囲気たっぷりです。昭和十二年の右書きの温泉効能書きや入浴注意書きが、あたりまえのように壁に貼りだしてあります。



あとがき

温泉ブームです。テレビや書店では、グルメ番組やグルメ本と並んで「温泉」と名のつく番組や雑誌をよく見かけます。温泉に行くとき若いお嬢さんたちにも会いますが、五十歳から六十歳代ぐらいの「おじさん、おばさん」たちも多いです。日帰りの立ち寄り湯においては特にその傾向が強いようです。

戦後のベビーブームの時代に生まれ、熾烈な競争社会を生き抜き、日本の社会や経済を支えてきた団塊世代の方々は、子育てを終えてできた時間と身体を近場の温泉で癒して過ごすのがささやかな楽しみなのではないでしょうか。

この『月の兎と行く九州100温泉』は、そうした団塊世代のお父さんやお母さんと娘さんの温泉旅行のために書いたといっても過言ではありません。

団体で温泉旅行にいく時代が去り、個人や小グループ

ででかける時代です。もともと温泉に縁遠いのは働き盛りの男性です。リタイアしたご夫婦で仲良く温泉に行くのはもちろんですが、温泉に行くのが最も似合うのは、やはり母と娘の（お金は当然に母が持つ）温泉旅行です。なかには奥様から見放されたご主人の一人湯というのもあるかもしれません。そういった温泉めぐりのお伴としてこの本が役に立てばと思います。

『月の兎と行く九州100温泉』は、私が仕事の合間の休日などに訪れた九州各地の温泉の印象を綴った紀行文を友人、知人に送っていたものや、その後、ミクシイ上の日記やコミュニティなどで「九州温泉紀行」シリーズとして書いた原稿をベースにして、今回、加筆修正、さらにイラストを追加して一冊の本にまとめたものです。

本作りに際しては、まず温泉本としてどういう特色を持たせるかということにぶつかりました。九州の温泉全部を紹介するデータ図鑑的なものがあるのか、人気がある温泉に絞ってその魅力を紹介することがいいのか迷いましたが、温泉関係の刊行物には数多くの観光情報誌が発行されていることから、実際に行って体験した生の温泉紀行レポートを読んでもいただくことを主眼にして、そ

れをデータやグルメや見所などの周辺情報や温泉のオススメ度などで補うという形をとることで、より楽しんでいただけるのではないかと考えたところでした。

しかし、実際に入湯した四〇〇湯以上の温泉の中から、この本でとりあげる一〇〇の温泉を選ぶのが大変でした。温泉の魅力には源泉かけ流しのほんものの温泉であることはもちろんのこと、施設・設備、サービスなどの魅力に加え、温泉での地域の人とのふれあい、コミュニケーションも、実は温泉の大きな魅力の要素だと思っからです。

そういう意味からは、有名な温泉地、立派な旅館、ホテルだけでなく小さな旅館や公衆浴場、鄙びた共同湯の湯船でのじいちゃん、ばあちゃんたちとの他愛ない世間話の光景もリアルに再現しています。

温泉紀行を本にすることを最初に勧めていただき、著者紹介も書いてくださった茨城大学教育学部教授の田中健次氏、推薦文を寄せていただいた立教大学観光学部長の村上和夫氏、コラムを書いていただいたSAGAなんでも相談クリニック院長の福本純雄氏の三人の友人（飲み友達）には、ほんとうにお世話になりました。また、

出版に際し貴重なアドバイスをいただいた観光情報コーディネーターの金子美代子氏にもお礼を申し上げます。

最後に、海鳥社の西俊明社長には快く出版をお引き受けいただき、編集から刊行までの煩わしい作業にお付き合いました。改めて感謝を申し上げます。

二〇一〇年四月二十八日

月の兎こと 平尾 茂

写真提供

赤川温泉赤川荘／黒川温泉旅館山河

栗野岳温泉南州館／新湯温泉国民宿舎新燃荘

妙見温泉おりはし旅館／湯之谷温泉霧島湯之谷山荘

ご協力ありがとうございました。

平尾 茂（ひらお・しげる）ハンドルネーム・月の兎。
1951年、佐賀市に生まれる。西南学院大学卒業後佐賀市
役所に入り、企画、文化、観光部門などを歴任、現在在
職中。全国各地の温泉、美味しい食べ物やお酒に興味があ
り、近年は九州を中心に温泉紀行をレポート。2008年か
ら mixi 上に「月の兎」というハンドルネームで温泉、
食、お酒、町歩きなど、軽妙なタッチのブログ日記を掲
載。「九州温泉紀行」というコミュニティを開設して温
泉情報の交換、交流の場を提供している。



つき うさぎ い きゅうしゅう おんせん
月の兎と行く九州100温泉



2010年6月1日 第1刷発行

2010年7月28日 第2刷発行



著 者 平尾 茂

発行者 西 俊明

発行所 有限会社海鳥社

〒810-0072 福岡市中央区長浜3丁目1番16号

電話092(771)0132 FAX092(771)2546

<http://www.kaichosha-f.co.jp>

印刷・製本 九州コンピュータ印刷

[定価は表紙カバーに表示]

ISBN978-4-87415-774-9

JASRAC 出 1006138-001